

中期経営計画について

中期経営計画について

競争がますます厳しくなる中で、お客様から「信頼され選ばれる金庫」を目指し今年度をスタートとする中期経営計画を策定いたしました。「信頼され選ばれる」ために、**行動力・創造力・革新**をキーワードにし、Face to Faceを基本としたこれまでの**地域に密着した**業務運営を継続しつつ、より一層のサービス・商品の提供に努め**お客様の満足度向上**を図ってまいります。

◆計画名称

『しずしん ANSINプラン』

それぞれのアルファベットにメッセージを込めるとともに「安心してお取引いただける」金庫となることを目指しております。

◆計画期間

平成**19**年**4**月**1**日▶平成**22**年**3**月**31**日

◆目指す姿

『親近感を信頼感へ、さらに存在感に変え、 このまちで選ばれるコミュニティバンクを目指す』

これまで実践してきた地道な活動から得られる親近感・信頼感を大切にしつつ、さらにもう一段上のサービス・活動の実践により選ばれる金融機関となることを目指します。

◆基本戦略

1. 顧客本位の業務運営の実践

お客様から喜ばれ、選ばれるための行動を実践してまいります。

2. 持続発展的な経営基盤の強化

地域での存在意義を高めるための行動を実践してまいります。

3. 内部統制の確立

公共的使命を果たし、安心して取引して頂くための行動を実践してまいります。

4. 活力ある人材と体制作り

熱いモチベーションを持ち、知識と行動を兼備えたプロ集団へ変革してまいります。

5. シンプルで分かりやすい仕組作り

誰もが分かり、変らず、間違えない業務品質の維持向上を図ってまいります。

◆主要計数計画

	平成19年度目標	平成20年度目標	平成21年度目標
コア業務純益	30億円以上	35億円以上	40億円以上
当期純利益	19億円以上	22億円以上	25億円以上
自己資本比率	13.0%以上	13.0%以上	13.0%以上
不良債権比率	4.60%以下	4.30%以下	4.00%以下



業績ハイライト

事業概況

◆強固で盤石な信用基盤の構築に向けて

創立以来75年を掛け培ってきた信用をより強固で盤石なものとするため、コンプライアンスを経営上の最重要課題の一つと捉え、部店ごとの勉強会・階層別の研修等を行い、従業員のコンプライアンスへの意識をより一層高めていく取組みを継続的に実施いたしました。

また、リスク管理につきましては、平成19年3月期の決算から導入されたバーゼルⅡへの対応を含め、従来からのリスク計測手法をより精緻なものへと高度化するとともに、多様なリスクを捉え管理する統合的なリスク管理に向け態勢の整備に取り組みました。

◆お客様の満足度向上に向けて

11月に古庄支店をリニューアルオープンし、駐車場ならびにATMコーナー、ロビースペースを拡張いたしました。個人のお客様向けには、商品は限定されますが平日や営業時間内にご来店できないお客様にも融資のお申込みやご相談をいただけるようコールセンターを開設し、365日受け付け・相談ができる態勢を整えました。さらにATMにつきましても、硬貨の入金ならびに通帳の繰越ができる機能を付加するなど、お客様の利便性向上に努めました。

◆地域社会のお役に立つために

静岡市内の全小学校へ地場産品ができる過程を紹介した小冊子「しずおか特産品解体新書」を8,000部贈呈いたしました。また、静岡市内の小学生に柔軟な発想で地場産品をデザインしてもらう「第5回 しずおか夢デザインコンテスト～あったらいいな!こんな地場産品～」を開催し、市内の75校から2,579点もの応募をいただきました。今後も、子供たちに地場産品への興味と関心を深めてもらう活動を継続して行ってまいります。

業績について

◆預積金の状況

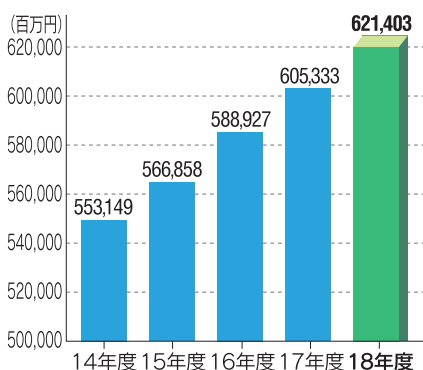
個人のお客様を中心とした安定預金の獲得に注力し、6月には創立75年を記念して金利優遇型の定期預金「しずしんヒストリー75」ならびに定期積金「しずしんウェブ75」を販売いたしました。さらに、11月から2ヶ月の限定で定額複利預金「冬の温もり」を販売し、多くのお客様に支持された結果、預積金残高は昨年度に比べ160億円増加し6,214億円となりました。

◆貸出金の状況

個人のお客様向けには、団塊ジュニア層を中心とした旺盛な住宅資金ニーズへの対応を図りました。中小企業のお客様向けには、課題解決型の提案営業を推進し、迅速かつ積極的に資金需要へ対応した結果、貸出金残高は昨年度に比べ87億円増加し3,565億円となりました。

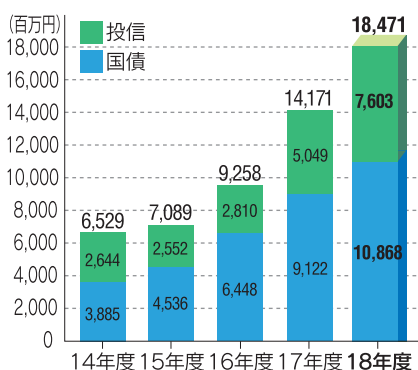
預積金残高

単位:百万円



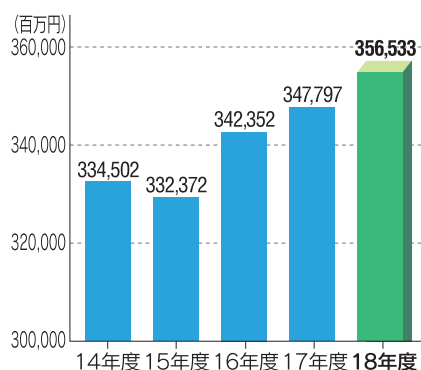
投信・国債の預かり残高

単位:百万円



貸出金残高

単位:百万円



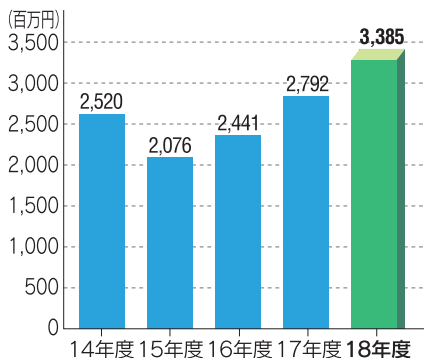
◆収益の状況

貸出金利息の増加に加え、有価証券等の余裕金運用における利息収入の増加もあり、経常収益は昨年度を7億48百万円上回る134億34百万円となりました。一方、経常費用は、預積金利息が金利の引上げを受け大幅に増加したものの、物件費の削減および与信コストの減少により昨年度に比べ1億5百万円減少し102億89百万円となりました。その結果、経常利益では昨年度を8億54百万円上回る31億45百万円、当期純利益においても昨年度より10億85百万円増益の26億28百万円となりました。

コア業務純益

単位:百万円

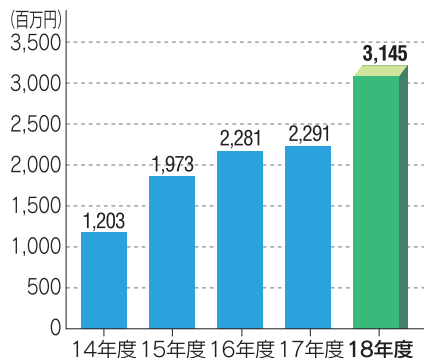
利息や手数料などの利益から経費を差し引いた、本業の利益を示す指標です。



経常利益

単位:百万円

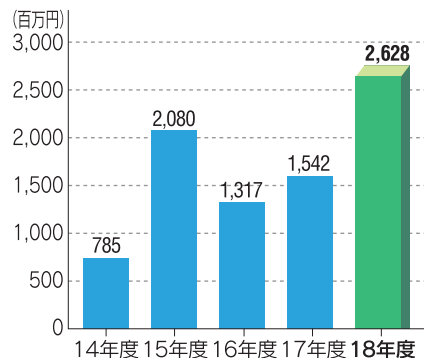
コア業務純益に有価証券等の売却損益や貸倒引当金の繰入額等を加減した利益指標です。



当期純利益

単位:百万円

経常利益に特別損益・税金等を加減した最終損益です。



◆最近5カ年の主要な経営指標の推移

項目	単位	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
経常収益	(百万円)	12,270	12,176	12,215	12,686	13,434
経常費用	(百万円)	11,067	10,203	9,933	10,394	10,289
業務純益	(百万円)	3,207	2,153	3,052	3,062	3,237
経常利益	(百万円)	1,203	1,973	2,281	2,291	3,145
当期純利益	(百万円)	785	2,080	1,317	1,542	2,628
預金積金残高	(百万円)	553,149	566,858	588,927	605,333	621,403
貸出金残高	(百万円)	334,502	332,372	342,352	347,797	356,533
有価証券残高	(百万円)	185,590	188,903	189,057	169,061	168,941
純資産額	(百万円)	37,456	37,571	40,111	38,623	43,117
総資産額	(百万円)	600,974	615,772	640,627	654,770	675,383
単体自己資本比率	(%)	14.14	14.57	13.80	13.46	14.35
出資総額	(百万円)	1,721	1,791	1,849	1,877	1,933
出資総口数	(千口)	34,429	35,835	36,995	37,545	38,662
普通出資に対する配当金 (出資1口あたり)	(円)	2	2	2	2	2
職員数	(人)	703	670	638	598	589

(注) 1. 単体自己資本比率は、信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づく告示に定められた算式に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。
2. 職員数には、役員・パートは含んでおりません。

「信頼され選ばれる金庫」を目指して

ゆうちょ銀行の誕生、規制緩和による他業態からの攻勢など、競争は非常に厳しくなっております。こうした中「お客様から信頼され、選ばれる金庫」となるべく、今年度から3カ年の中期経営計画『しずしん ANSINプラン』をスタートさせました。本計画では「お客様の満足度向上」に主眼をおき、接客対応の向上はもとより商品・サービスについても充実させ、これまで以上にお客様に喜んでいただけるよう取組んでまいります。

また、地域の皆さまからの信頼をより一層高めていくため、内部統制を強化し、ガバナンスの向上ならびにコンプライアンス態勢のさらなる充実・強化を図ってまいります。これからも「健全でお客様本位の経営」に努め、「取引するならずおか信用」と最初にお選びいただけるよう金庫一丸となって取組んでまいります。

健全性について

自己資本の状況 (単体ベース)

◆自己資本比率

自己資本比率は、金融機関の健全性や安全性を表す重要な指標とされており、この値が国内基準適用金融機関では4%以上確保することが求められております。

また、平成19年3月期からは、バーゼルⅡ(新しい自己資本比率規制)が適用となっております。バーゼルⅡでは、比率算出の分母となる信用リスクが従来以上に細分化されたほか、オペレーショナルリスク(事務ミス等により損失を被るリスク)を新たに含めることとなりました。

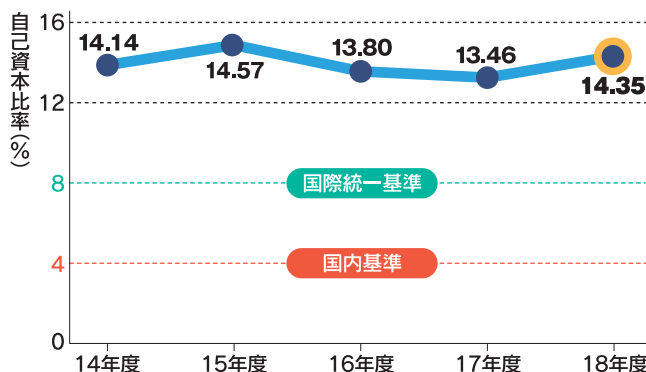
これにより、分母となるリスクアセットは増加しましたが、好決算により自己資本を積み増した結果、自己資本比率は昨年度に比べ0.89ポイント上昇し14.35%となり国内基準を大きく上回っております。

注)リスク・アセットとは、リスクを有する資産(貸出金や有価証券など)をリスクの大きさに応じて掛け目を乗じ再評価した資産金額のことをいいます。

14.35%(単体ベース)

自己資本比率の過去5年間の推移

単位%



$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本総額}}{\text{信用リスク・アセット(精緻化) + オペレーショナルリスク相当額} \ominus 8\%(\text{新設})} \times 100(\%)$$

◆自己資本の調達手段と充実度について

当金庫の自己資本は、地域のお客様による出資金、利益準備金および特別積立金等による基本的項目が多くを占めております。これまで利益のほとんどを特別積立金として積み上げることで362億60百万円の残高となりました。中身の濃い充実した自己資本は、高い健全性・安全性を示すものと評価しております。

なお、将来に向けましても年度ごとに掲げる収支計画に基づいた業務推進を通じ、そこから得られる利益の積み上げにより自己資本の更なる充実を図ってまいります。

◆単体自己資本比率

項目	平成17年度	平成18年度
普通出資金	1,877	1,933
利益準備金	1,877	1,933
特別積立金	33,660	36,260
次期繰越金	194	110
その他有価証券の評価差損(△)	1,303	—
処分未済持分(△)	—	—
営業権相当額(△)	—	—
基本的項目(A)	36,305	40,237
土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当	1,594	1,581
一般貸倒引当金	739	889
負債性資本調達手段等	—	—
補完的項目不算入額(△)	—	—
補完的項目(B)	2,333	2,470
他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額	3,760	3,760
控除項目不算入額(△)	3,760	3,760
控除項目(C)	—	—
自己資本額(A) + (B) - (C) = (D)	38,639	42,707
資産(オン・バランス)項目	280,142	269,856
オフ・バランス取引項目	6,764	6,077
オペレーショナルリスク相当額を8%で除して得た金額	—	21,659
リスクアセット等計(E)	286,906	297,593
自己資本比率 = (D)/(E) × 100	13.46%	14.35%

不良債権比率への対応

◆不良債権比率

4.63% (金融再生法ベース)

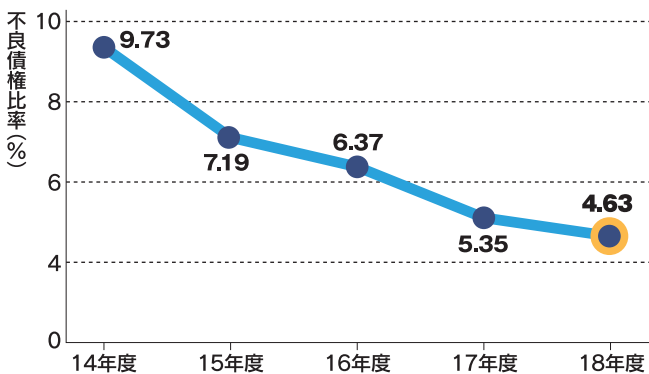
金融再生法ベースでみた開示債権額(除く正常債権)は、168億68百万円と昨年度に比べ21億79百万円減少しました。不良債権比率では、昨年度に比べ0.72ポイント低下し4.63%となり5%を下回る水準となりました。(部分直接償却を実施した場合は4.39%となります。)

不良債権につきましては、損失見込み額の引当に加え潤沢な自己資本によりカバーされ備えは万全です。

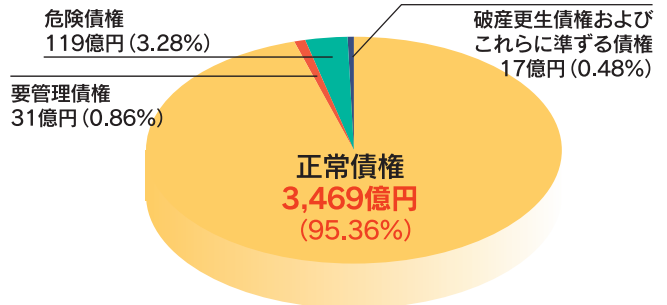
注)部分直接償却とは、回収不可能と見込んだ額を部分的に直接償却したものとして、不良債権の額から減額することをいいます。

不良債権比率の過去5年間の推移

単位%



金融再生法開示債権の内訳



格付け

◆日本格付研究所 (JCR) の長期優先債務格付け

当金庫では、財務内容を分かりやすく示す客観的な指標として、格付けを取得しております。(株)日本格付研究所 (JCR) からは、「債務履行の確実性が高い」として長期優先債務格付けにおいて「A-」シングルAマイナスの評価を受けております。

注)「AA」から「B」までの格付け記号には同一等級内の相対的な位置を示す符号として、プラス(+)もしくはマイナス(-)の符号による区別があります。また、格付けが中期的にどの方向に動き得るかを示す「格付けの見通し」として、「ポジティブ」「安定的」「ネガティブ」「不確定」「方向性複数」の区分があります。

長期優先債務格付けとは

企業が負う債務の償還能力を評価したものです。詳細についてはJCRのホームページをご参照下さい。

<http://www.jcr.co.jp>

A- / 安定的

AAA	債務履行の確実性が最も高い。
AA	債務履行の確実性は非常に高い。
A	債務履行の確実性は高い。
BBB	債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来、債務履行の確実性が低下する可能性がある。
BB	債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。
B	債務履行の確実性に乏しく懸念される要素がある。
CCC	現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。
CC	債務不履行に陥る危険性が高い。
C	債務不履行に陥る危険性が極めて高い。
D	債務不履行に陥っている。